

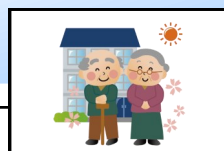
Oh!Smile

2018年 3・4月号

ことわざ



愛の諺



「男女の愛」編

○ 愛多ければ憎しみもまた多し

(あいおければ

にくしみもまたおとし

ちよつとした感情のもつれで、今まで愛していた心が憎しみの心へ変わるというもの。愛するの愛されるの、ほどほどのバランスを保つほうが良いのかもしれない。そのバランスが崩れると愛が憎さへ変わって押し寄せます。

○ 逢い戻りは鴨の味

(あいもどりはかもものあじ)

昔の恋愛に再び火がついた愛欲は、以前より激しくなり、理屈ではどうにもならないものへと発展してしまふ、気をつけなければならぬという戒めです。

○ 色は思案の外

(いろはしあんのほか)

恋すると理性を失って、常識や普通の考えができなくなってくるものだという事です。恋に燃えているときは、周囲の人の意見が耳に入らなくなるものです。

○ 恋の道には女がさかしい

(こいのみちには

おんながさかしい)

「さかしい」とは「賢い」という意味です。恋愛に関しては、男性に比べて女性のほうが数段賢い策略の知恵が働くという事です。

○ 知らぬが仏 見ぬが秘事

(しらぬがほとけ みぬがひじ)

知らないほうが良かったものを、知ったばかりに腹が立ち、怒りを覚えることはよくあることだということです。男女の仲も過去のことを知らずにいればお互いに心穏やかにいられるものです。



○ 泣く子に乳(なくこにちち)

どんなに激しく泣いている赤ちゃんも母親の乳を与えれば、ぴたりと泣き止んでしまうところから、このことわざが生まれました。人は本能的に相手の反応を確かめる性質を持っているのでしよう。甘え上手も生来備わっているのかもしれない。

○ 坊主憎けりや袈裟まで憎い

(ぼうずにくけりやけさまでにくい)

ある人を憎らしいと思うと、その人に関係のあるものまで、すべて憎らしく思うことのとえです。心底憎いと思つたら簡単には忘れられないようです。

○ 目は心の鏡(めはこころのかがみ)

目は最も表情に富んでいます。目を見れば、その人間の正邪が分かるというものです。心清ければ、瞳も澄んでいます。目はその人の心を映し出す鏡ですから、目の中に優しさがあるかどうかを見逃してはいけません。

○ 高根の花を羨むより足元の豆を拾え

(たかねのはなをうらやむより

あしもとのまめをひろえ)

高望みするより、実質を取りなさいという意味です。夢ばかり見ていると、すぐ近くに素晴らしい人がいても気がつかないのです。

○ 千里も一里(せんりもいちり)

(おぼれて通えば千里も一里、逢わず戻ればまた千里)という俗曲から生まれたものです。逢いたい一心で出かける時は、長い道のりでも苦にならないものです。恋愛は逢っているときよりも、逢おうとしているときの気持ちのほうが数倍楽しいと言えます。



「夫婦の愛」編

○ 男は妻から(おとこはめから)

妻の心がけ次第で、男は出世し、幸せにもなるということです。山内一豊の妻の千代は貧乏だった頃、織田信長から「優秀な馬を揃えよ」と命令が下された際に貯めていたへそくりを差し出して馬を購入、この馬が信長に気に入られたことから一豊は一気に出世していくという有名な逸話があります。先を見通す判断が即座にできる妻こそ、良妻と言えるのではないのでしょうか、ということ。お前までわしや九十九まで(おまえひやくまで)

○ お前までわしや九十九まで

(おまえひやくまで

わしやくじゅうくまで)

お前とは夫、わしは妻のことをさしています。妻が夫に言っていることばなのです。「あなたは百歳まで生きてください。私はあなたより一年少ない九十九歳でいいです」という夫への謙虚な気持ちが出ています。夫婦になった縁を大切にしたい気持ちなのです。

○ 稼ぎ男にくり女

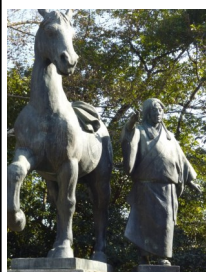
(かせぎおとこにくりおんな)

外でせつせと働き、一家の収入をはかる夫と、ムダのないように家計をやりくりする妻がいる、理想的な夫婦のあり方をいっています。

○ 家内喧嘩は貧乏の種

(かないげんかはびんぼうのたねまき)

夫婦の仲が悪いと、家中の雰囲気はとげとげしくなり、貧乏のもとになるといわれています。たとえお金がなくても、心まで貧しくなるとはいけませんという戒めです。明るい家庭には必ず幸せが訪れるものです。



「家族の愛」編

「人への愛」編

○ 親しき仲に垣をせよ

(したしきなにかきをせよ)

どんなに親しくても、一定の礼節を欠くと争いが生じやすくなるという戒めです。夫婦喧嘩の原因のほとんどが、日常生活での口のきき方から始まるといえます。けじめを守っていれば、良き仲は続くものです。

○ 七去(しちきよ)

封建時代から伝わる妻を離縁する場合の七つの条件なのですが、三不法といって離別してはならない事項があります。そのひとつに「初め貧乏で後に裕福になった場合」とあり、夫の力だけでなく、妻の協力があつたからこそである、たとえ妻に問題があつたとしても許しなさい、ということなのです。

○ 好いた同士は泣いても連れる

(すいたどうしはないてもつれる)

愛し合つて夫婦になつた二人は、どんなに悲しいことや辛いこと、苦しいことがあつても添い通すものであるということなのです。昔の人は辛抱強く立ち向かつていました。

○ 添わぬうちが花(そわぬうちがはな)

結婚して家庭を持てば、恋愛中のような楽しみ方はできないというものです。理屈では分かつていても理解できないケースが多々あるようです。結婚生活ができる人がどうか、おつき合いをしている過程で見極めなければなりません。

○ 夫婦は従兄弟ほど似る

(ふうふはいとこほどにる)

もともと他人同士の二人が夫婦として暮らしているうち、性格や行動まで、まるで血縁関係にある者同士のように似かよつてくるというものです。類句に「似た者夫婦」があります。

す。意識しているわけではありませんが、自然に似てしまうものなのです。



○ 子にする事を親にせよ

(こにすることをおやにせよ)

歳をとつていく親のほうは粗末にしがちなもの、子供と同じように親にも尽くしなさいという戒めです。親が亡くなつてからでは、孝行はできません。「孝行したい時分に親はなし」です。

○ 子は産むも心は生まぬ

(こはうむもこころはうまぬ)

子供の体は産むものだが、心まで生まない、という意味です。一方、「この父あつて、この子あり」は立派な父親が子供を立派に育てたというもの、また逆の意味で使われるのが「この母あつて、この子あり」です。だらしな母親に育てられ、とんでもない性格になつた子供をさしています。

○ 父の恩は山よりも高く

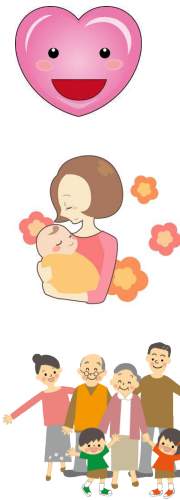
(ちちのおんはやまよりもたかく)

このことわざは、親に感謝しない者は、やがて自分たちが親になつたとき、子供に粗末にされるといふ戒めを表しています。最近では親孝行の観念が薄らいでいるようです。親がどんな苦勞して育ててくれたのかを知つておくべきでしょう。

○ 年寄り家の宝

(としよりはいいのたから)

家族に経験豊富なお年寄りがいると、何でもよく知つているので万事に危なげがないということ。お年寄りの話しは勉強になることが多いです。それは大切な宝物であり、幸せの度合いが変わってきます。



○ 我が身を抓つて人の痛さを知れ

(わがみをつめてひとのいたさをしれ)

人はとかく他人の苦しみや痛さに気づかず、思いやりのないことをしてしまうものです。自分の身をつねつてみて痛いのであれば、他人もまた痛いのだから、相手思いやらなければならぬという戒めです。「自分がされて困ることは、他人も困る」のです。

○ 見ざる聞かざる言わざる

(みざる 言わざる いわざる)

「人の欠点を見ない、聞かない、言わないようにしなさい」とともに、自分に都合の悪いことは「見ざる」「聞かざる」「言わざる」で切り抜けないという処世術です。人間は誰しも欠点だらけです。賢明な生き方をいっています。

○ 誉人千人悪口万人

(ほめてせんになんわろくちまんにん)

世の中は、褒めてくれる人よりもけなす人のほうが多いとたとえています。褒められて悪い気持ちになる人は少なく、お世辞とわかつていてもうれしくないものです。しかし「褒める人には油断すな」ということわざもあり、あまりにも不自然な褒め方には注意が必要です。

○ 泣くより歌(なくよりうた)

同じ一生なら、笑つて陽気に暮らした方がよいというものです。陽気であることが、周りの人を幸せにし、またなんだか得をするような気がします。

○ 一寸の虫にも五分の魂

(いっすんのむしにもごぶのたましい)

ある視点だけで、人を差別する風潮があります。人それぞれの人生のあり方を否定するような言動や、命の尊さを軽んじる行動は決して許されるものではありません。たつたひとつの大事な人生は優しく思いやりのあるものでなければならぬという教えます。

編集後記

春は新たな始まりを迎える季節です。人と人との別れや出会いも春、また恋愛もやはり春という季節がふさわしく感じますね。本屋さんで「迷いを絶つ謔」という題名の本が目に入り、手にしました。注釈がおもしろく、余計に迷うなあ!と笑いながら読みました。ことわざとは古き時代の人々が経験から積み重ねてきた教訓的な言葉であり、時おり何かにつけて引用したりします。時代は変わつても人や物事への想いは変わらないものがあります。ことわざにはそんな愛の心が詰まっています。「なるほど!」と頷く事柄がたくさんあります。後世の人々へのメッセージ、贈り物ですね。人生は山あり、谷あり、迷いながら誰しもがそれぞれの人生を歩みます。それをまっすぐに正しく導いてくれるのがことわざの存在なのでしょう。人と人とのつながりは生きていく上で一番大切です。春という季節にふさわしいと思ひましたので取り上げてみました。参考にしてみてください。

(YASU)

浪速フード株式会社
〒570-0003
守口市大日町3-32-11
TEL 06-4252-7770
FAX 06-6904-2610
E-MAIL smile@naniwaf.co.jp
HP <http://www.naniwaf.co.jp>
※「Oh!smile」へのご要望・お問合せは上記にご連絡ください。